

復活の主日（日中）（ヨハネ 20:1-9）

後任の神父様も、田平教会に「来なさい」と呼ばれた



あらためて主の復活おめでとうございます。復活徹夜祭は、中村倫明大司教様の復活の喜びの手紙をお借りして届けました。この復活の主日日中のミサの説教は、私の言葉で伝えたいと思います。

復活徹夜祭の説教を通して、私たちは復活したイエスさまの「おはよう」を聞ききました。イエスさまの「おはよう」「平和があるように」を聞いた人たちは、自分のしなければならないことにすぐに気づき、動き出します。マグダラのマリアは弟子たちのところに走って行きました。

ヨハネ福音書ではありませんが、エマオに向かう弟子たちもイエスから使命を託され、すぐに使徒たちのもとへ走って行きました。ここでは「おはよう」「平和があるように」以外のほかの言葉でしたが、復活したイエスから声をかけられた人は、使命を感じて出かけていくのです。

では私たちはどこで、イエスの声を聞くのでしょうか？「おはよう」「平和があるように」またはその他の声かけを、どこで聞くのでしょうか。いろんな考えがあるかも知れませんが、私たちを田平教会聖堂に集めてくださる声が聞こえた場所が、「復活したイエスが声をかけてくださった場所」ではないか。そう考えています。

中田神父は七年間、評議会の役員に一つの声をかけ続けました。「困った困った。」「お酒があるぞ」とか「おいしいケーキがあるぞ」ではありません。いつも「困った困った」と声をかけていました。するといつもすぐに役員の方が「どうしましたか？」と飛んできてくれました。

中田神父の「困った困った」は、評議会の役員からすれば、「あー。すぐに来い」ということだなと理解して、本当にすぐに来て用件を聞き、対処してもらいました。福江にこのまま連れて行きたいくらいです。

イエスも、皆さんを田平教会聖堂に集めるために、巧みに声をかけてくださっています。私たちはただ単に「来なさい」と言われてもすぐには動かないことが多いのです。そこで、一人一人、気が付いたら田平教会聖堂に集められている。そんな仕掛けを、復活したイエスさまは用意するのです。あなたがどうしても、この聖堂に集まって復活を祝う気になるように、工夫して声をかけておられるのです。

「中田神父は、あと2回しか田平で日曜日のミサをしないよ。行く？行かない？」そんな形で「来なさい」と呼びかけるかも知れません。「今年は何回、ミサに行ったかな？」そういう呼びかけかも知れません。「家族のために、みんなで祈ってもらったら？」この声かも知れません。

つまり、復活したイエスの声は、日常生活の中で聞こえるということです。その声はあなたを田平教会聖堂に導きます。あなた自身をこの聖堂に導くだけではありません。あなたの家族も、あなたの友人も、導きが必要としているすべての人も、「来なさい」と呼ばれています。

田平教会聖堂には、復活したイエスから、もう一人「来なさい」と声をかけられました。それは後任の主任神父様です。後任の神父様は初めて平戸地区で司牧活動を始めます。どうか、惜しみない協力をお願い致します。復活したイエスの声に、田平教会家族はきっと応じてくれる。そう信じています。